

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2025.1 vol.225



新年明けまして おめでとうございます。

院長 田中 康博

2025年(令和7年)の新年の挨拶を申し上げます。今年も皆さんの期待に応える病院を目指し、頑張っていきたいと思っています。

年々、医療界は厳しくなっているのが現状です。特に新型コロナウイルス感染症を契機に、時計の針が予定より早く進み、様々な問題点が露呈されてきました。人口減少、少子高齢化、生産年齢の減少、物価や人件費高騰など社会問題が出現し、医療界も大きな波に飲み込まれている感じです。現在あるいは将来に向けて、自ずと医療の在り方も変わるべきですが、変わっていない、いや変われないのが今の状況ではないでしょうか。今こそ変わらないと2040年問題をクリアできないと思っています。

鹿児島医療センターは、「がん」「脳卒中」「心臓大血管」を3本柱に糖尿病、腎臓、歯科口腔外科などのサポートを受けながら、患者さんにとって最適な医療を提供しています。ひとりの患者さんの命を救うのに多職種で、多くのスタッフがかかわり、さらに高品質な医療を提供することができるようになりました。この医療は継続したいと思います。

がんに関しては、耳鼻咽喉科や皮膚腫瘍科、血液内科、婦人科など高いシェア率の診療科も引き続き実績を積んでいますが、さらに消化器系が少しずつ充実してきました。また、がんの治療率の向上とともに、生存率も改善し、がんとの共存が重視されています。がんの相談窓口では仕事や修学の両立支援や精神的サポート、経済的問題など様々な相談に応じています。がんの治療のみならず全人的ケア、社会復帰へのお手伝いなどもさせてもらっています。仕事と治療の両立支援は若年性認知症、慢性心不全、脳卒中後遺症なども対象となります。

高齢化が進むと、ひとりで複数の病気を持っている患者さんが増えています。治療が複雑化する要因でもあります。新たにマルモ外来(マルチモビディティーに特化した外来)を始めました。このような形も将来へのパイロット事業と考えています。

心臓や脳血管の治療もカテーテル(カテ:医療用の管)を用いた治療を多く取り入れ、迅速に行えるようにしています。心臓のカテ室を3室、頭部、腹部専用カテ室を1室、ハイブリッド手術室を1室設置し、従来の治療(冠動脈疾患、不整脈アブレーション)に加え、心臓、脳および消化管の新しい血管治療に対応できるように成りました(経皮的動脈弁置換術TAVI800例、経皮的僧帽弁形成術Mitral clip50例、経皮的脳血管治療300例を達成)。

鹿児島の医療の発展のためには啓もう活動も重要です。年3回の市民公開講座(がん、脳卒中、心臓大血管)を通して、皆さんとともに医療のことを考え、良い医療の形を創っていききたいものです。

鹿児島医療センターは「心のある医療人」「納得する医療」を目指し、職員一同、精進していきます。今年もよろしくお願いいたします。

幹部年賀状



副院長
松崎 勉

明けましておめでとうございます。

医療安全、がん診療連携など大変お世話になり有難うございました。

さて、医療DXにつきましてマイナ保険証利用の促進、電子処方箋の導入など進めてまいりましたが、不具合の発生などまだまだ課題が山積という状況です。個人の健診情報や服薬情報が医療現場で共有でき、より正確な情報に基づいた診療が早く実現することを願っております。今後、電子カルテの統一化などの事業が進んでいくものと考えますが、AIへの対応など医療DXの流れに遅れることなく取り組んでいかなければならないと考えております。また、働き方改革に伴う勤務時間管理も始まり、適正な医療の提供体制の構築には手探りの状態です。早期にモバイル端末導入による情報共有を進めていく予定でしたが、経営状況から遅々として進まない現状です。本年は、IT化による施設間連携を課題として目指していきたいと思っております。課題ばかりが多い現状を一つずつ解決していきたいと思っております。

医療安全につきましても、心理的安全性が確保された職場となるようさらに取り組んでおりますが、コロナ禍後で人間関係が希薄となっておりコミュニケーション不足が目につくようになったと感じます。

IT化の中でも顔の見える関係づくりを目指して、「希」望の見える年となりますよう、本年も、どうぞご指導の程お願い致します。



統括診療部長
郡山 暢之

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健康で穏やかな新年を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。

昨年、鹿児島医療センターでは、診療予約体制の見直しやオンコール救急体制の再構築、さらには他疾患併存状態（マルチモビディティ）診療の開始など、多くの挑戦と改革に取り組んでまいりました。しかし、経営状況は依然として厳しく、地域医療への貢献に対する不安も抱えておりました。それでも、多くの皆様のご支援とご協力のおかげで、年末には徐々に改善の兆しが見えてまいりました。

新年を迎え、急速に変化する医療状況を踏まえつつ、地域医療を支えるための新たな施策やサービスの導入を進めてまいります。また、医師の皆様との連携を一層強化し、質の高い医療サービスを提供できるよう、さらなる努力を重ねていく所存です。これにより、皆様のご負担を軽減し、地域医療の充実に貢献できることを心から願っております。

さらに、一人でも多くの患者様に安心してお越しいただけるよう、受診環境の整備にも尽力してまいります。地域の皆様には、引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、患者様のご紹介をぜひともお願い申し上げます。皆様からのご紹介が、私たちにとって何よりも励みとなります。

皆様のますますのご発展と健康をお祈り申し上げるとともに、本年も鹿児島医療センターをどうぞよろしくお願い申し上げます。



臨床研究部長
松下 茂人

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年4月に臨床研究部長を拝命しまして、研究しやすい環境づくりと研究業績の公正な評価に尽力してまいりました。SMO（治験施設支援機関）の導入、規程・手順書整備などを通し、治験推進基盤の強化を図るとともに、研究業績ポイントに応じたインセンティブ制度を導入し、各診療科・部署への公平な資源分配を目指しました。また、研究情報公開の整備や論文業績の「見える化」を図り、ホームページを刷新いたしました。鹿児島大学連携大学院講座は、より先進的かつ包括的な臨床研究を遂行できるように「臨床情報医工学」と名称変更し、東健作循環器内科部長と梅橋功征臨床検査副技師長を客員教授としてお迎えし、共同指導体制の下、2名の大学院生の指導を開始しました。関係各位のお力添えに深く感謝申し上げます。

本年は、昨年の実績を基に、DXを活用した効率的な臨床研究システムの導入や、円滑な倫理審査申請のための支援ツール整備等、研究支援体制の強化に努め、質の高い臨床研究をさらに支援してまいります。臨床研究部一同、皆様の健康と医療の向上に貢献できるよう尽力いたしますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



メディカルサポート
センター長 兼
地域医療連携部長 兼
循環器内科主任部長

蘭田 正浩

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、元旦早々に能登半島地震が発生し、翌日には航空機衝突事故が起こるなど、慌ただしい始まりとなりました。

4月からは医師の働き方改革に伴う時間制限が導入されましたが、医療DXや地域医療構想など、さまざまな課題も引き続き残されています。

これから日本は人口減少の局面に入りますが、しばらくは高齢者の比率が増加し、それに伴い高齢者の救急患者数も増加すると予測されます。医療は細分化・高度化が進んでいますが、新たに新設された「下り搬送」や「地域包括医療病棟」などを含め、地域の診療所・医院（かかりつけ医）や地域中核病院との密接な連携がますます重要になると考えられます。

当院では、新型コロナウイルス感染症の影響により患者数が完全には戻らず厳しい状況が続いていますが、これまで同様、循環器、脳卒中、がんの3分野を診療の柱として取り組んでまいります。昨年度はこれらの部門に関する市民公開講座を久しぶりに会場形式で開催し、多くの市民の皆さまにご参加いただきました。今年度は、地域医療連携を強化するための懇親会を再開する予定です。

当院のメディカルサポートセンターでは、地域医療連携、入退院支援、がん相談支援を3つの柱として掲げ、さらなる改善を目指して職員一同で日々努力を重ねております。本年も地域医療に貢献できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



事務部長
織田 政継

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、台風に伴う停電による長期間の診療制限等で皆様には多大なご迷惑とご心配をお掛けしてしまい誠に申し訳ございませんでした。日頃からの施設設備点検の重要性とリスク管理の大切さを痛感いたしました。二度とこのような事態を招かぬよう努めてまいります。

皆様もご存じの通り、当院の外来棟・東病棟は築40数年経過し、老朽化が目立ってきております。しかし、当院の経営状況、昨今の物価高騰、人件費高騰を鑑みるに、近々の建替え整備は難しい状況です。施設設備の更新整備や医療機器等への投資など十分に行えない現状ではございますが、経営改善に努め、皆様の信頼に応えられる病院を目指してまいります。また、マイナ保険証や電子処方箋などのDX化等にも積極的に取り組んでまいります。

さて、今年の干支は「乙巳(きのと・み)」です。乙巳の年は、新しいものが生まれ成長していく年と言われており、「変化と革新」「成長と発展」「チャンスの年」という特徴が挙げられます。

古い体質・体制からの脱却し、新しいことにチャレンジする「シン・鹿児島医療センター誕生」の年にできればと思います。

本年が皆様にとって素晴らしい年になることを心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



看護部長
岸田 佐智子

新年あけましておめでとうございます。

皆様、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

鹿児島医療センターは、心臓病・脳卒中・がんの診療を3本柱としております。昨年は3本柱の看護の質向上を目指し、地域の病院の看護師の皆様にご参加いただき研修を行いました。今後も、地域の皆様と交流しながら、より良い看護の実践に努めていきたいと思っております。

また、看護部では「関係の質」を向上させる取り組みを行っております。「関係の質」とはお互いを尊重し一緒に考えることであり、対話(相手の方の気持ちを理解)とコミュニケーションが重要といわれています。「関係の質」を大切にすることで、組織の目標達成、医療安全の推進、看護の質向上につながると思います。今後も皆様に信頼され、選ばれようとする病院となるよう精進してまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度 九州・沖縄ブロック DMAT実動訓練 【長崎県】

参加の報告

令和6年11月24日に令和6年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練に参加しました。
大雨・土砂・台風被害により長崎医療圏・県央医療圏（諫早市）が甚大な浸水被害にみまわれ、医療機関のライフラインが壊滅的な被害を受けた想定での訓練でした。

我々のチームは災害拠点本部である長崎医療センター参集、支援場所（諫早総合病院）と支援内容（病院支援内容に関しては現地スタッフとの協議で決める）を確認して現場に向かいました。
諫早総合病院に到着するとライフライン3系統ともダウンしており、病院の方針としては、

- ①入院患者さんは、軽症者は病院内にとどまり医療を継続する
- ②重症者は長崎医療センターに速やかに搬送する
- ③ライフラインを早期に立て直す

以上のように籠城しながらも一部は避難という方針でした。我々のチームは主に②に関しての支援を行いました。具体的には重症患者の搬送手配と調整並びに、搬送までの患者管理と準備を行いました。非常に有意義な訓練となりました。

（文責：救急科医師 田中 秀樹）



新 任 紹 介



心臓血管外科

永富 脩二

2025年1月より、鹿児島医療センター 心臓血管外科に赴任しました永富脩二と申します。

前回から約2年半ぶりの当院勤務となります。以前よりも患者さん・スタッフ・病院に貢献できるよう努力してまいります。

不慣れな点も多いですが、どうぞよろしくお願いいたします。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

（代）TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

メディカルサポートセンター

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

